

【概要】令和6年度第1回倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

日時：令和6年8月20日（火）13：25～15：00

場所：倉吉市役所大会議室（本庁舎3階）

1 開会

<あいさつ>

（事務局）

- ・出席委員数15名／18名。懇談会設置要綱第6条第2項「会議の開催要件の過半数」を満たす旨報告。
- ・委員委嘱後初めての会議であるが、時間の都合上の自己紹介省略。出欠名簿をもって紹介に代える。

（事務局）

- ・委員就任を快諾いただいたお礼。
- ・国全体、3大都市圏においても今後人口減少の危機。地方においても人口流出に歯止めをかけ、魅力ある安心な地域を作り3大都市圏からこの圏域に人口の行き来をさせる取組が必要。
- ・中部圏域も一つになり、強みを活かし弱みを補い、住みよい地域をつくりたいという考えで、ビジョンにまとめ、実践し、人口流出に歯止めをかけたい。
- ・ビジョンの目的、趣旨を理解いただき活発な意見を賜りたい。

<定住自立圏構想及び鳥取県中部定住自立圏の概要>（説明者：事務局）

初めての委員が多いため、改めて定住自立圏構想、及び鳥取県中部定住自立圏について説明。

参考資料 定住自立圏構想及び鳥取県中部定住自立圏の概要について

P2～P5

- ・特に地方で人口減少、少子高齢化の急速な進行により、地方でも安心して暮らせる地域を形成し、人口流出を食い止めるとともに、三大都市圏の住民もライフステージ、スタイルに応じた居住の選択ができ、地方への人の流れを生むための構想。
- ・全ての市町村にフルセットの都市機能を整備することは将来的に困難が予想され、効率的な施策が求められており、広域的な取組みや、行政や民間等の相互連携・役割分担を通じ、強みを活かし、弱みを補いながら、生活機能の維持・確保のための取組を実施し、圏域における人口定住の維持・促進を目指すもの。

P6～P9

- ・定住自立圏中心市宣言を行った市が、周辺の市町村との間で、議会の議決を経た上で、「定住自立圏形成協定」を締結し、人口定住のため、必要な生活機能を確保するための役割分担を決めていく。
- ・「共生ビジョン懇談会」での検討を経て、他市町村との協議の上、概ね5年を想定した「定住自立圏共生ビジョン」を策定し、圏域の将来像、具体的な取組内容、成果等を決める。
- ・ビジョンに基づき、中心市及び周辺市町村が役割分担した上で、具体的な取組を展開している。

P10

- ・鳥取県中部定住自立圏：H21.3に倉吉市「中心市宣言」、H22.3に倉吉市と中部4町と協定を締結した。H23.3に第1次ビジョンを策定してから、現在第3次ビジョンのもとで各取組を実施している。
- ・中部圏域での連携では、特別地方公共団体の鳥取中部ふるさと広域連合があり、広域連合で権限をもって、消防やゴミ処理等広域で取り組むべき事業を実施している。定住自立圏は1市4町それぞれ権限を持ち、自治体同士相互に連携をし役割分担しながら事業に取り組んでおり、広域連合とはまた少し違う組織だが1市4町が広域連合とも連携を図りながら進めている。

P12

- ・「定住自立圏共生ビジョン」に基づく取組について、国から一定の財政措置を受けている。特に特別交付税の交付は非常に大きな財源（中心市：年間平均8,500万円程度、近隣市町村：年間平均1,800万円程度）そのほか地域活性化事業債などの財政措置も活用しながら、中部1市4町で圏域の生活機能の維持のための取組を推進している。

2 会議

(1) 会長及び副会長の選出について

(事務局)

・委員からの「事務局案一任」を受け、事務局提案のとおり、会長に山田修平委員（学校法人藤田学院）副会長に中林委員（鳥取中央農業協同組合）を選出。委員異議なし。

(会長)

- ・ビジョン懇談会には、第1次から関わっている。当時「～絆と自立、癒しと活力～」をキャッチフレーズに、自立し、そして活気に満ち、大勢の人々に来てもらいたい思いで計画を作ってきた。
- ・本日は、第3次のチェックと第4次素案への意見出しがポイント。我々委員としては、どんどん意見ができるのは良いが、国の財政措置との兼ね合いや分野も踏まえながら勉強しながら進めたい。

(2) 第3次鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの取組について（説明者：事務局）

資料1-(1) 第3次共生ビジョン関係事業に係る決算・予算額等一覧（R5-R6）

- ・R5年度事業実績・決算／R6年度予定事業・予算について説明（各事業ごとの説明は割愛）
- ・R5執行主な事業として救急医療体制、病児病後保育。広域観光推進、執行額としても大きい。単独では難しい圏域カバーすることで機能確保し、住民の役に立っている事業と考える。R6予定事業も同様。
- ・資料訂正① R6湯梨浜町担当課（認知症）長寿福祉課→R6福祉課、（広域婚活）まちづくり企画課。
- ・資料訂正② R6「鳥取中部観光推進機構支援事業」の財源内訳について、国庫補助がなくなっているため、全て一般財源：1,071万2千円。

資料1-(2) 第3次共生ビジョン関係事業に係る決算・実績等一覧（R2-R6）

- ・R2-R6（R5）主な取組（事業）に実績（決算額・成果指標実績）をまとめたもの。3次ビジョンの途中で、「県立美術館を活用した広域周遊滞在型観光地創出事業」を追加。他の事業は第3次ビジョン以前からも、継続して取り組んでいる。（各事業ごとの説明は割愛）
- ・成果指標を達成しているもの、そうでないものがあるが、特に救急医療、病児病後児、中部消費生活センター、中部成年後見支援センター、中部子ども支援センターなど、圏域で一体的に機能確保して運営している取組も多くある。数字だけでは見えない部分もあるが、圏域住民に必要な機能を確保しており、今後も継続して圏域で取り組む意義あるものとする。

<質疑応答>

（委員） 資料1-(1)について、R6の県立美術館を活用した広域周遊滞在型観光地創出事業、当初の計画では1億円だったのが、R6予算額は約5億、5倍に増えているが何があったか。

→（事務局） 全体的に10億円規模の事業費まで広がっていると認識している。どの時点で1億だったのか後ほど確認し、誤ってあれば訂正させていただく。

<事務局 会議後確認>

- ・「県立美術館を活用した広域周遊滞在型観光地創出事業」は、市立図書館側の駐車場の整備のため、定住自立圏で取り組む財源として、国の「地域活性化事業債」を活用するため、R4にビジョンを修正し、事業追加した。
- ・計画上の予算も、駐車場整備を想定して1億円としていたが、現在、駐車場整備だけでなく、令和6年度取組予定に記載しているとおりの事業、工事を予定しており、当初より事業費の規模が大きくなっている。結論としては、資料の数字に誤りは無い。

(3) 第4次鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの策定について（説明者：事務局）

資料2- (1) 第4次鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（素案）

- ・ 現行第3次ビジョンの第1章から第4章までの内容を一部整理、各市町の概要・地域資源等まとめ直し、ボリュームを落としたが、国が示すビジョン掲載項目（計画期間、圏域の将来像、人口・高齢化率目標）は網羅。
- ・ 次期ビジョンでも、圏域の将来人口の目標値を立て、ビジョンに基づき、各取組を推進、連携していくことで、中部圏域全体において中長期的な人口減少幅の逡減という目標を掲げていく。
- ・ 第1次ビジョンからの、圏域づくりの基本方針や、キャッチフレーズ、想いは維持している。

<質疑応答>

- ・ (委員) 各市町の概要の中の人口について、令和2年国勢調査の数値が使用されているが、4年前のもので現時点で増減がある。参考値として、直近の数値を載せてはどうか。
→ (事務局) これまでも、最新の国勢調査の数値を使用してきたところだが、いただいた意見踏まえ、一定の基準時点での人口を参考値掲載するよう検討したい。
- ・ (委員) 期間途中でのビジョン変更はあるか。当然来年は国勢調査、新たな情報は随時入ってくる。
→ (事務局) 事業や協定の追加・変更等により計画期間中もビジョン変更することはある。ただし、序論部分はR7の国勢調査の結果が出て変更する予定は現時点はない。大きな社会情勢の変化に応じ、必要な変更があれば臨機応変に対応したい。
- ・ (会長) 各市町の産業構造比率の掲載があったらよい。

資料2- (2) 次期ビジョン策定に向けた第3次ビジョン掲載事業・今後の検討課題整理一覧

- ・ 現行ビジョンで取り組んでいる事業を次期ビジョンで実施するか、「第6章 今後の検討課題」の項目についての次期ビジョン以降の方針（協議継続するか、検討課題から外すか等項目整理）について各事業担当課の考え方をまとめたもの。
- ・ 次期ビジョンから実施しない事業
 - * 認知症システム（認知症クリティカルパス事業の運用）：既に医療機関の間での運用が進み事業完了。
 - * 地方創生戦略勉強会開催事業：定住自立圏構想勉強会開催事業と事業を統合する。
- ・ 今後の検討課題について、どの時点、どういう経緯で検討課題として整理されてきたか不明な項目もあるが、1市4町各事業担当課で次期ビジョンでどう扱うかを考えをまとめた。
- ・ 取組の実態や時代の流れ等を踏まえ、検討課題としては一旦「削除」して整理したい意向の項目について概要を説明（資料2- (2) 今後の検討課題・協議結果欄 黄色網掛け）

資料2- (3) 別冊・次期ビジョン取組事業掲載内容案（現行ビジョン内容見え消し）

- ・ 現行ビジョン既存事業を次期ビジョンでも実施すると整理した事業について、取組概要や具体的な事業の内容、事業費、成果指標等について、各事業担当課で中身を検討した案。（現行ビジョンから赤字修正）
- ・ 次期ビジョンからは各事業ごとに成果指標の設定したい。現行ビジョンでは、協定項目に対する指標か、事業について設定されている指標かが分かりにくかったため。
- ・ 主な修正内容を説明。P6 認知症診断システム事業の運用：削除。P23 公共交通ネットワークの充実：別で策定を進める地域公共交通計画との整合を図り、当該計画の内容を反映していく。P31 広域的な情報提供：ケーブルテレビ利活用検討会開催事業を「中部広報連絡協議会開催事業」として再整理。CATV以外の電子媒体も含め効果的な情報発信を検討していく。P35 合同勉強会開催事業：定住自立圏勉強会と地方創生勉強会を統合したものとして整理。
- ・ 各協定項目の規定内容について、事業担当課で言い回し等修正しているものがあるが、現時点で各事業の取組実施には支障がない。今回は急ぎ協定を変更せず、今後新たな協定項目の追加等必要な際にまとめて行うこととし、今回のビジョンの策定に合わせては協定変更は行わないよう事務局としては考えている。

※資料2- (2) (3)については、質疑なし

<定住自立圏の取組に対する委員からの提案等>

(会長)

・本懇談会は決定機関ではないが、計画の参考に各委員から意見をだして、行政で検討した結果、実現難しければ難しいと言われるので、それは受け入れざるを得ないが、せっかくなのでいろんな意見を伺いたい。

(委員からの意見)

(委員) 移住者の各ニーズ(温泉、海が近い、静かなまち…)に合う移住先が紹介できるよう、各市町の移住相談体制の横の連携強化が必要。

(委員) 「今後の検討課題」で継続協議とされている低炭素社会の構築、カーボンオフセット。鳥取みらい電力に係る各市町の連携、期待している。

(委員) 定住自立圏構想のポイントでもある人口流出、地方への移住の創出を考えると、高等教育をしつかりと広げ、若い人たちが地元に残って地元で教育を受け、地元でエキスパートとして仕事をしていけるようなことを考えてほしい。

(委員) 従来ビジョンからの取組も必要だが、4次ビジョンの目玉となる取組も必要では。若者が1市4町で就職できるような取組に力を入れてほしい、例えば奨学金免除制度の横連携。教育したのに外に出てしまっては遅い。ちゃんと地元で就職する、それを考え、取り組んでいけば、この地域活性化する。

(委員) 若者が魅力を持てるまちづくり、地元で働きたいと思える具体的な策を見つけてもらえる。

(委員) 支援が必要な子どもが増えている。学校職員のサポートスキルが上がるような取組があれば。

(委員) 県外に出た子どもが就職等を機に地元に戻るのを考える際、小さい頃の楽しい思い出があると、それが支え担ったりすると思う。学校での思い出、不登校やいじめ等考えてもらえたら。

(委員) 100金バスはよい。美術館もできるので、駅からなど気安く公共交通を利用できる取組があるとよい。

(委員) 高齢者福祉で関わる中で、これから身寄りのない高齢者が増えていき、入院等様々な手続きを誰が担うか等課題となってくる。各自治体いろんな取組を参考に、取り込めるところは取り込んで。

(委員) 空き家、商店街も寂しく、観光客が来ても交通不便。神戸の乗り放題パスなど参考に、美術館出来るので、赤瓦や、関金、三朝温泉など各観光地を巡れる乗り放題パスなども考えていただきたい。

(委員) ケーブルテレビ協議会の活動として、共同制作のほか、祭りの中継もしている。また、第1次ビジョンの時に各市町の議会中継を見たいという声もあり、議会のネット配信等も進められているが、ケーブルテレビの議会中継をネット配信することでも情報共有がはかっているのではと考える。

(委員) 病児保育を利用する保護者から、診察受けてからの利用になるので午前中かかってしまう。休みやすい環境や、保護者が短時間だけ休んで仕事に戻れるようになるとよい。また、休日に屋内で親子で遊べる場所を望む声があった。

(委員) スポーツの魅力を発信していきたいが、住民向けのスポーツ大会は公民館単位が多く、チームづくりが難しくなっている。住民がスポーツを通じて、健康づくりに繋がる取組を考えていきたい。

(委員) 観光地に行っても店が開いてない、店が少ないといった観光客からの声もある。行政ばかりにお願いすることでもないが、民間の中でもお互いに連携・支援をしながら、中部に来ていただいたお客様に対して、楽しんでいただける環境を作っていきたい。

(4) その他

事務局から事務連絡。

3 閉会

(事務局)

・観光、子育て、若者の定着など活発な意見をいただいた。持続可能な圏域を維持するために必要なことだろうと考えており、担当課ともよく議論し、ビジョンの策定に取り組んで参りたい。